

# 海洋投棄タイヤ ヤドカリを捕殺

海に捨てられたタイヤの内側に入り込んだ大量のヤドカリが、外側に脱出できないまま命を落とすケースが頻発している仕組みを、弘前大学農学生命科学部の曾我部篤准教授(行動生態学)の研究グループが明らかにした。タイヤ内側のへりがネズミ返しのような構造になっていることが原因。海に投棄された漁具などが海洋生物を捕殺する「ゴーストフィッシング」が生態系に与える影響が問題視される中、曾我部准教授は「廃タイヤの影響について、さらに調査と対策が必要」と訴えている。

## 入り込んだら出られず

研究内容は10月27日発行の英科学誌「ロイヤルソサイエティー オープンサイエンス」に掲載された。ヤドカリは生物の死体や植物片を食べる習性があり、「海底の掃除屋」の異名がある。多くのヤドカリの活動を抑制することは、一帯の生態系を崩す危険性につながる。研究は曾我部准教授が、東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター(青森市浅虫)に所属していた2012年6月、調査のため近海に潜ったところ、海底に沈んだタイヤの内側に大量の巻き貝の殻やヤドカリがた

## 弘大・曾我部准教授ら 仕組み解明「対策を」



まっているのを見つけたのがきっかけだった。仕組みを解明しようと、14年に浅虫の海底に廃タイヤ6個を設置。長期間、海底に沈んでいるタイヤの状態をつくり出してから、15〜16年に毎月、タイヤに落ち込んだヤドカリを数え匹のヤドカリを確認した。陸上での水槽実験では、18時間でタイヤの外側にいたヤドカリが50〜70%の確率でタイヤの内側に入り込んでいたのに対し、内側から外側への脱出はゼロだった。ヤドカリには高い所に移動しようとする習性があるが、タイヤ内側のへりがあるネズミ返しのような構造や、内部の表面に凹凸がないことが脱出を阻んでいる要因と分かった。曾我部准教授は「海底が泥や砂だと、下に隙間もできない。海流に乗っての脱出も期待できない。他の生物に捕食される危険性も高い」と指摘。廃タイヤが特定の生物に影響を与えているという事実を踏まえ「何がどのような形で生物に影響を与えるか分からない」と話し、海洋投棄の防止を訴えた。(福士和久)



曾我部准教授が青森市浅虫の近海の海底で見つけた廃タイヤ。内側に大量の巻き貝の殻が落ちている。2012年6月

上記の画像は、当該ページに限って”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。